

わが国ロボット（AI+）戦略の あり方に関する提言 — 概要 —

2026年3月17日

一般社団法人 日本経済団体連合会

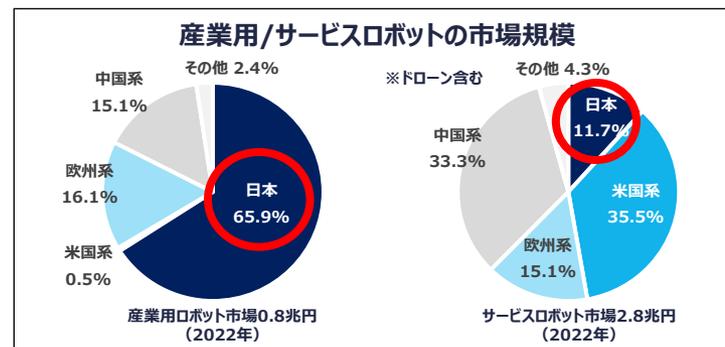
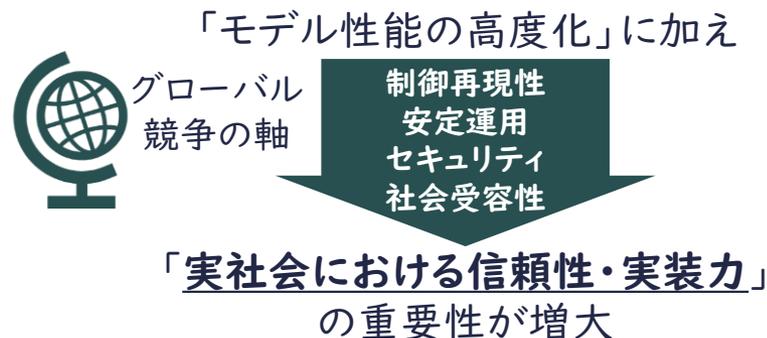
1. はじめに (趣旨・背景)

(1) 社会経済構造の変化とロボットの位置づけ

- 構造的な人手不足、老朽化インフラの維持管理
- 高度化・多様化するサービス需要への対応
- ロボットは、産業構造を高度化する中核的な基盤技術
- AIを搭載したロボット (AI+) は、社会課題解決と産業競争力強化に資する潜在力を持ち、人と共生しながら社会に貢献する存在

(2) グローバル競争環境の変化と日本の立ち位置

- AI分野では、計算資源・データ・資金等を背景に米中が先行
- 一方、日本には産業用ロボットで実装・改善を積み重ねてきた強み



【出典】経済産業省 AIロボティクス戦略検討会議

(3) 求められる総合的なロボット (AI+) 戦略の策定

需要者・利用者起点の視点を重視しつつ、ロボット (AI+) を通じた 社会課題解決と産業競争力強化に資する道筋を示すべき

2. 基本的な考え方

(1) 目指す社会像

- ロボット(AI+)が人を一律に代替するのではなく、支援・補完を基本としつつ、必要に応じて完全代替も視野に入れた「人協調型」社会

(2) 利用者起点のロボット(AI+)

- ロボット(AI+)実装の目的は、社会課題の解決と価値創出
- 利用者起点で、開発から導入・運用・改善まで一体的な展開が必要

(3) 競争力の源泉

- ハード: センサー等の要素技術(競争力の根幹)
- ソフト: ①品質への信頼に基づく産業データ蓄積
②現場での実装・改善の知見(「現場知」)

社会実装を通じた信頼の蓄積が競争優位を形成



データ分断
横展開が困難

産業データスペース
企業・業界の垣根を
越えてデータを連携

高品質・高信頼

「既存産業の強み」と「新たな発想・技術」が融合するオープンなエコシステム

基本認識

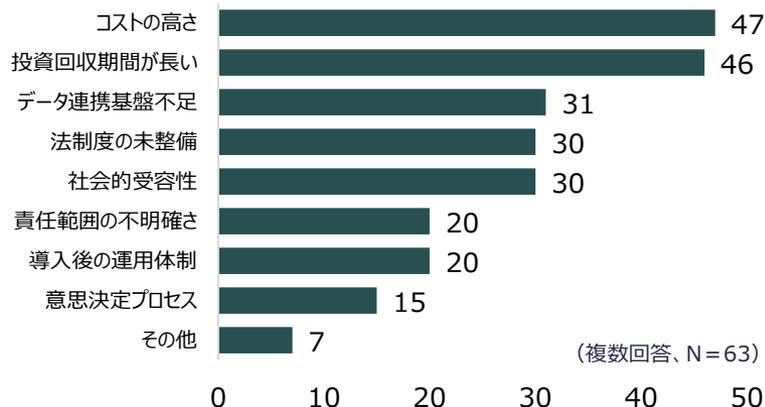
- 企業が自らリスクを取り、主体的に投資を行うことが大前提
- 中長期的な価値創出を見据えたマインドセットへの転換が必須
- 一方で、共通プラットフォームや法制度の未整備等、民間だけでは克服困難な課題も

政府に求められる役割

- 民間の挑戦を後押しする環境の整備
- 緊密な産官学連携を大前提に、大胆な投資促進策、規制・制度改革、国際標準化、国際展開支援、人材育成等の一体的推進



「社会実装・市場展開を阻害している主な要因」



- ✓ 社会実装には、民間だけでは克服困難な制度・基盤・人材等にまたがる分野横断的な課題も
- ✓ 個別施策では十分な対応が困難



一体的・戦略的な推進が不可欠

※2025年12月8日～2026年1月16日、産業競争力強化委員会・同企画部会、デジタルエコノミー推進委員会・同企画部会・AI活用戦略TF、イノベーション委員会・同企画部会委員企業を対象にアンケート実施

3. 政府への要望(1)ルール形成

— 規制・制度改革および国際標準化の推進 —

ロボット(AI+)活用領域は工場外フィールドへ拡大

社会実装
の加速



災害対応



インフラ点検



物流



建設



介護

国内制度整備(基盤)



- ネガティブリスト方式を基本とした「ガードレール型」ルールの整備
- 制御再現性やサイバー・フィジカル両面のセキュリティの確保が必須
- 実証や社会実装の現場で得られた具体的知見を汲み取った制度設計

国際標準化(展開)



民間の創意工夫・
イノベーションを誘発

- 高品質・信頼性を軸とした国際標準化の戦略的な推進
- 社会受容拡大とグローバル市場開拓を見据えた基準・規格の策定
- 産官学が緊密に連携し、オープン&クローズ戦略の下、競争力強化とグローバル市場獲得につなげることが極めて重要

実装を支える制度整備と競争優位を築く国際標準化戦略

3. 政府への要望(2) 人材育成

— ロボット(AI+)エコシステムの構築 —

社会実装と持続的な競争力確保の成否は人材に大きく依存

【統合型人材】

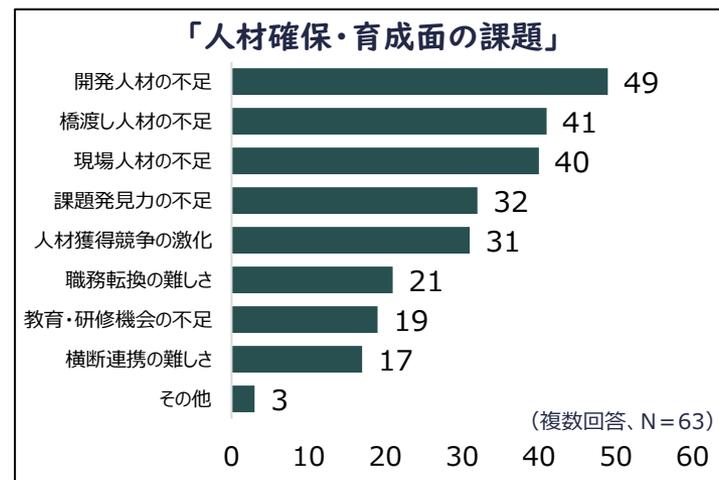
- 技術・現場・経営を横断的に連繋
- 社会実装を主導する橋渡し人材
- キャリアとしての確立・評価

【現場人材】

- 運用・保守・改善を担う人材
- 現場知の蓄積・継承の仕組み構築
- 安定的稼働を支える技能の評価

【エコシステム形成】

- 産官学人材循環等の人的投資への支援強化
- スタートアップを含む社会実装とマネタイズ
- 幼少期から挑戦意欲を育む環境整備



※2025年12月8日～2026年1月16日、産業競争力強化委員会・同企画部会、デジタルエコノミー推進委員会・同企画部会・AI活用戦略TF、イノベーション委員会・同企画部会委員企業を対象にアンケート実施



持続的なエコシステムの構築に向けて、政府が
イニシアティブを取ることが戦略的に極めて重要

時間軸に応じた優先順位付け (環境の変化に合わせた柔軟なアップデート)

並行して推進

【短期|Build & Run】「信頼の基盤」蓄積を踏まえた社会実装の加速

- 産業用ロボット等を核とした社会実装の加速
- 制御再現性・安全確保等、「信頼の基盤」の蓄積
- サービス事業の高度化とスタートアップ参画の促進



【中期|Expand & Scale】運用領域拡大

- 「産業データスペース」の本格運用
- 生活・サービスロボットへの展開を本格化
- 安全性・安心感・社会受容性を競争力の中核に



【長期|Global Presence】第三極としての国際的地位確立

- 人間社会との共存を前提とした設計思想の確立
- 「現場力×安全×品質」のグローバル展開
- 米中に伍する「第三極」としてのポジションを確立



信頼の蓄積と市場形成の積み重ねによって、
アジャイルに並行して社会実装を推進

【短期: Build & Run】

「信頼の基盤」蓄積を踏まえた社会実装の加速

- 産業用ロボット等を核とした社会実装の加速
- 制御再現性・安全確保等、「信頼の基盤」の蓄積
- サービス事業の高度化とスタートアップ参画の促進

【中期: Expand & Scale】

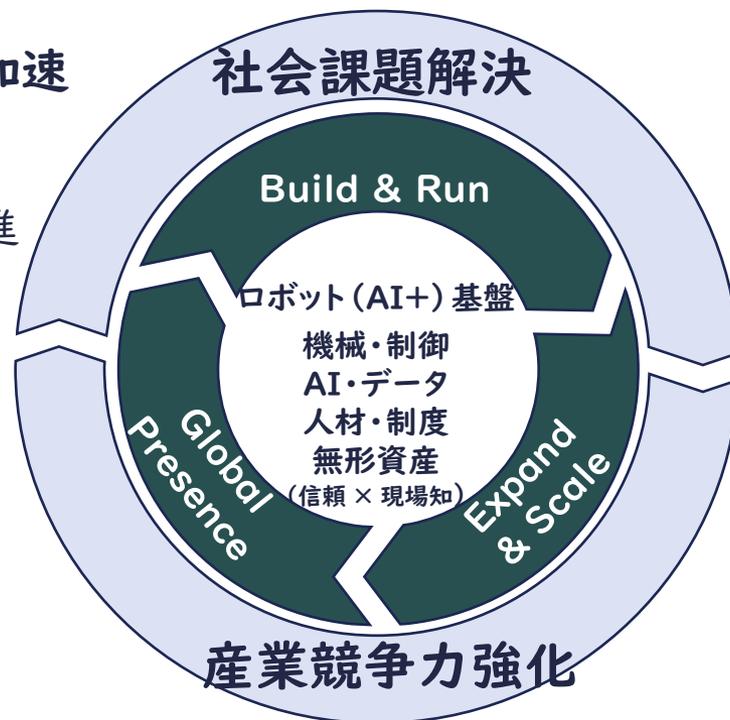
運用領域拡大

- 「産業データスペース」の本格運用
- 生活・サービスロボットへの展開を本格化
- 安全性・安心感・社会受容性を競争力の中核に

【長期: Global Presence】

第三極としての国際的地位確立

- 人間社会との共存を前提とした設計思想の確立
- 「現場力×安全×品質」のグローバル展開
- 米中に伍する「第三極」としてのポジションを確立



ロボット(AI+)基盤を中核に
短・中・長期を同時に推進



人と共生しながら社会に貢献するロボット(AI+)

ロボット (AI+) による社会課題解決と産業競争力強化のイメージ



- ✓ 今夏に予定される「日本成長戦略」の策定に向けて、戦略分野への総合的な支援が検討されていることは、千載一遇の機会
- ✓ ロボット(AI+)を通じた産業競争力の強化と社会課題の解決への貢献は「車の両輪」。両立してこそ持続可能な成長が可能に
- ✓ 産業用ロボット分野の優位性を活かし、社会実装を通じて培われた信頼等を礎に、勝ち筋に沿った戦略の着実な展開が不可欠
- ✓ 経団連としても、「投資牽引型経済」への転換に向けて挑戦と実装を積み重ね、産官学の結節点として先導的役割を果たす決意

Keidanren
Policy & Action